

# 障がいを伴うアスリートのためのドーピング検査ガイド

恒久的または一時的な障害を伴うアスリートとして、ドーピング検査中に特別な配慮が必要となる場合があります。知っておくべき事項は以下の通りです：

検査員 (DCO) は、特別な配慮が必要かどうか、また具体的にどのような支援が必要かを尋ねます。

変更内容はDCOと合意の上決定されます。支援が必要な場合、同伴者が補助します。

サンプルキットを扱う際は、同伴者は必ず手袋を着用しなければなりません。

あらゆる変更内容はドーピング・コントロール・フォーム (公式記録書) に記録されます。

変更例

これは英語原文の翻訳版です。意味や趣旨に矛盾がある場合、英語版が優先されます。

## 01 身体障がい

一時的または恒久的な障がいにより、ボトルを密封できない場合、同伴者が手袋を着用して代行できます。

必要に応じて、同伴者が尿検体の提供を補助できます。

## 02 視覚障がい

検体採取時に、同伴者に付添人として立ち会うよう依頼できます。

尿検体をA・Bボトルに注ぐ際に補助が必要な場合、同伴者は手袋を着用した状態で補助できます。

署名前にドーピング・コントロール・フォームの内容を読み上げ、正確性を確認するお手伝いも可能です。

## 03 知的障がい

同伴者はアスリートが完全に理解できるようにドーピング検査の手順を説明します。

ドーピング・コントロール・フォームの記入が困難な場合、同伴者が補助できます。

## 重要ポイント

尿検体採取に追加の器具が必要な場合、その器具を準備するのはアスリートの責任です。

器具がない場合、ドーピング検査手順に従わなかったとして、アンチ・ドーピング規則違反の対象となる可能性があります。

必要な器具が不明な場合は、看護師、医師、または作業療法士など専門家に相談してください。